

日時：令和5年11月9日（木）14時00分から16時05分

場所：四街道市保健センター3階 第2会議室

出席者：

【委員】江崎俊夫（会長）、佐藤光江（副会長）、北林栄峰、川口一美、中村嘉孝、長谷川睦美、海保智行
渡部洋、調知博、

【職員】荒木寿久社会教育課長、田島衣織課長補佐、柳田一成主事、安藤響香主事

欠席者：1人（福田三千男）

傍聴人：0人

1 開会（開会の言葉：荒木社会教育課長）

2 会長挨拶（江崎会長より挨拶）

3 会議の公開等

江崎会長の議事進行により、下記についての了承を得る。

①会議は公開とする。

②会議録の作成については、要点の記載とし発言者の氏名を明記する。

③議事録署名人については、押印廃止に伴い、特に署名を求めない。

④傍聴者を確認し、傍聴人はなし。

4 議題

江崎会長：それでは議題に入ります。（1）「第4次四街道市生涯学習推進計画について」資料No1の序章から第1章まで、事務局より説明をお願いします。

荒木課長：（下記について、資料No1に沿って説明）
・「表紙～序章」について

田島課長補佐：（下記について、資料No1に沿って説明）
・「第1章」について

江崎会長：事務局からの説明について、ご意見、ご質問はございますか。

佐藤副会長：表紙の文言について、ねらいはいいと思いますが、生涯学習としては少し不適切ではないでしょうか。もう少し練ったほうが良いかと思います。

- 川口委員 : みなさんが読みやすいというのはすごく大事ななことかと思しますのでその心意気はともいいと思います。生涯学習は一人でも勉強しますが皆で勉強してということもあるので、そのような雰囲気もあるびつりの言葉はないかと考えています。いろいろな世代の人が最初のページを開いてみたくなるようにと、曲とかは別にして、読みやすさ等についてよく考えているなど感じます。また、第1章になり漢字がすごく多くなっており序章との差が大きいので改善できるといいと思います。序章まで読んでもこの先、続かない人が出てきてしまうのではないかと思います。
- 江崎会長 : その他、ご意見等いかがですか。
- 調委員 : 資料N o 1 の4 ページ目でいいことが書いてあると思います。ながら読みしても内容が理解できるというのが大事かと思しますので、特に重要な項目には特徴をつけたりすると良いのではないのでしょうか。また、第3次計画が市民にどのくらい浸透、認識されたのでしょうか。
- 荒木課長 : 計画書としての認識は少ないかと思えます。生涯学習という名称や行為については少しずつ浸透してきているのではないかと思えます。基本構想でも入れましたが、生涯学習を取り組んでいる人の割合も5年前よりは増えています。目標には達していませんが、第3次計画の成果があったかと思えます。
- 江崎会長 : その他にご意見等はございますか。
- 海保委員 : 意見ではないのですが、「世界にひとつだけの花」のキャッチコピーを使うためには、許可等はいらないのでしょうか。
- 荒木課長 : 著作権の関係についてはおそらく大丈夫かと認識しておりますが、もう一度確認いたします。
- 江崎会長 : 他にございますか。ご検討いただいて、ご意見があれば後日事務局へお願いします。
- 川口委員 : 先ほどお話があった、どのくらい市民に浸透しているかということについてです。実際いろいろな事業でプログラム自体に触れている市民の方はたくさんいるかと思えます。それも大事なことかと思うのですが、市の計画としての方向性で準備していることとプログラムでやっていることは少し違うと思えます。やったことがありますかの問いに対する生涯学習はやっているとおっしゃる方は多いと思えますし数字もそれなりかと思えます。最初の入口はそこかと思うのですが、いずれは市民の方が市と共にこういう勉強をしたい、こういう風に育っていきたいというのがあると思うので、この計画というものが毎回たくさん練って市民のために各々の部署がやっている、ということ認識してもらおうのが大事なことかと思えます。今後アンケートを取るのであれば両方を聞けるような質問があると、指針になるかと思えます。計画自体があるということ市民の方に

知ってもらえると生涯学習の繁栄につながるのかと思います。

調委員 : 今の話に関連したことです。資料N o 1 の 8 ページ目の下から 3 行目のところに「学習情報を一元化する取り組みを行い」と記載されています。これはとても大事なことかと思えますし、なんとなくはわかります。SNS を使うとか、まなびいガイドブックを見るときか、そういうことかと思うのですが、委員である我々はわかっても市民の方にはわかりにくいかと思いました。具体的に表す必要があるのではと思いました。

江崎会長 : 今のご意見についていかがですか。

田島課長補佐 : 今回この計画の中にも加えましたが、県のシステムを使い、情報を集め、民間や市の情報、県内、近隣の市、そのようなものを構築していこうという動きをこの五カ年でやっていきたいと考えています。また、まなびいガイドブックは現在、すごく薄くなり、掲載されている内容も、単に「ここへ電話してください」のような一言しか書いていない状態です。直近のホットな話題が一切掲載されていません。これらをQRコードを用いてタイムリーな情報を見られるようにするなどの工夫をすることが「一元化」の中に必要ではないかと考えています。資料N o 1 の 8 ページの内容が薄いということであれば今説明したような内容も追記していければと思います。

江崎会長 : その他にございますか。

渡部委員 : 表紙のキャッチコピーについてですが「花」という言葉を活かして「令和の世に大きな花を咲かせよう」は、いかがでしょうか。

江崎会長 : 一つの案といたします。他にご意見はございますか。
計画を見てもらうという点では、見せ方を工夫する必要がありますね。

江崎会長 : その他ご意見が無いようですので、続いて第 2 章等について事務局より説明をお願いします。

田島課長補佐 : (下記事項について、各資料に沿って説明)
・「第 3 次計画と第 4 次計画の違い」について
・「目次の承認」について
・「第 2 章」について
・「コラムの案の確認」について
・「理念」について

江崎会長 : ただ今の事務局からの説明について、ご意見、ご質問はございますか。

江崎会長 : 先ほど、アンケートと話がありましたが、何についてのアンケートを考えていますか。

田島課長補佐：一つは、生涯学習をやっているという認識を持ってもらえるようなアンケート、もう一つは、事業の満足度を市民に直接聞いてデータを取っていくことを各事業に依頼しようと考えています。

江崎会長：各関係部署がそれぞれ市民に聞くということでしょうか。

田島課長補佐：はい。そのとおりです。

江崎会長：各部署で主観的な評価をしていたものを、市民の目線で客観的な評価を取り入れていくということですね。

荒木課長：第3次計画の反省として第4次計画では、新たにアンケートを取り検証していくことを取り入れ生涯学習を推進していこうと考えています。

調委員：アンケートの内容を事務局である程度方向性を定めておいたほうが良いのではないのでしょうか。

田島課長補佐：事務局の方で考え、例を提示してアンケートをする担当部署に諮っています。そのまま使うことができないアンケートもあるので各担当にて加工してもらい、アンケートを取っていただく形になるかと思います。ただ、会議の中で二通りの意見が出ており、継発的な意味でアンケートを取るのか、生涯学習としての評価をもらうためのアンケートなのか、問い合わせがあったためそのあたりの整理は必要になると思います。

調委員：参考資料No3の15ページ、16ページの重点事業について、なぜこの重点事業を選んだのか、根拠の説明をお願いします。

田島課長補佐：資料No2をご覧ください。重点目標の内容から考えられる参考事業を委員の皆さんにピックアップしていただきました。それぞれの事業の内容から、参考資料No3の12ページに記載の主な取組として、各事業の推進していることや目標をもって行っていることのカテゴリーをいくつか添えています。重点目標から参考事業を選んでいただき、その中身で主な取組の概要をまとめたという流れを作っているため、皆さんから選んでいただいた参考事業から、なるべくピックアップ事業を選びました。そこで、この事業が入っているのはおかしいのではないかと、重点目標を見直さなければこの事業が入っている必要はないのではないかと等、まだ「案」の段階ですので、一項目ずつご審議いただけると助かります。

調委員：12ページの主な取組イコール重点事業ということでしょうか。

田島課長補佐：はい、その内容が対応していた方が良いと思いますので、主な取組イコール重点事業となるようにしたいです。

田島課長補佐：補足で説明いたします。参考資料N o 3の13ページ、成果目標についてです。これまで2回の審議会を行い、委員の方からいただいた意見の中で、特に強い意志を感じたものに、生涯学習の成果を活かしたボランティア活動の衰退に歯止めをかけたい、高齢者が増える社会で生涯学習の重要性を再確認してもらいたい、生涯学習を通じて地域の人材になりうる市民を育てる事業の重要性や、タイムリーに市内でどのような活動が行われているのか生涯学習の情報を集約、発信する必要がある等がありました。それらのニュアンスをちりばめて成果目標の方向性を決める重要なところには観点を置いた次第です。

長谷川委員：生涯学習をやれやれということでしょうか。11ページの目指す方向2～4はわかるが1-1子育てで、生涯学習を子どもたちの親がいろいろなことを知らないから教えてあげるとのことですか。

田島課長補佐：イメージとしては、自分が必要としたものを学べる機会があるという事、子育ての時期には子育てに必要な学びがあるという事に気づけたらいいなと思っています。やれやれではなく、必要に応じて本人が選べるような学習の場があるという気づきがあってもいいのではと思います。

川口委員：お知らせする意味としては「仲間がいますよ、他にもやりたい人が集まってやろうとしている、やっていますよ」ということがわかることが大切ではないでしょうか。

江崎会長：市民の方々の温度差はありますね。積極的に参加したいと思う方は参加しているが、あまり興味の無い方を強引に引き入れるというつもりはないですね。きっかけがあるといいなというような考え方が生涯学習にあると思うのですが、事務局はどのように考えますか。

田島課長補佐：市の理想があり、それに対して学びの場を広げようと提供されていると思います。誰もが気軽に参加できて遠慮なく入れる、そういった場を提供し必要であればどうぞというスタンスで待っていると思います。

江崎会長：自主性という言葉が書いてありますが、押し付けの感じがあるので、自己啓発や主体的という言葉の方が自分から参加できるそのようなきっかけになると感じます。

北林委員：4ページに書いてある通りかと思います。時間をどう使うかというのが課題になっていると思います。自分の人生を豊かにするためにご紹介をするだけで、四街道市としては市の方針があり、その特色を入れて、興味を持ってやってみてくださいというようなものだと思います。

佐藤副会長：90項目事業がありますが精査していくということでしょうか。

田島課長補佐：各方向性についていくつか追っていく事業を出してもらい、今日可能であれば決めていただきたいと思っています。参考事業として、90項目の中から関係するものを委員の方から該当するものを選んでもらっています。全部の中から探すのは大変かと思いますが、もしよければ参考事業の中から挙げていただければと思います。

佐藤副会長：似ている事業を一本化するという方向性もありでしょうか。それとも担当課が違うから似ていてもそれぞれの事業とするのでしょうか。

田島課長補佐：各課にお願いをして状況を追っていくものなので、それぞれでやります。

江崎会長：15ページから17ページのような表が18ページ以降も整理されるということですがこのピックアップされている事業がこれによろしいかどうか事務局としては聞きたいということですね。

調委員：なぜ、選ばれたのか理由があればいいのですが、理由や説明がないので良いかどうかわかりません。

荒木課長：ピックアップ事業候補としている内容は委員の方から出していただいた意見を載せています。なぜ選んだかという、挙げていただいた意見と事務局の意見が共鳴したということになります。

調委員：一つ一つの説明はできないでしょうか。

田島課長補佐：(下記について、参考資料No3、15ページから説明)
・「1-1子育て ピックアップ事業候補」について

江崎会長：13ページの順番と記載されている事業の順番を合わせていただきたい。

田島課長補佐：はい。もう一度整理します。

江崎会長：では、説明を続けてください。

田島課長補佐：(下記について、参考資料No3、18ページ以降説明)
・「1-2健康～4-3施設の整備 ピックアップ事業候補」について

江崎会長：新規と書いてあるのは、90項目の中にはないのでしょうか。

田島課長補佐：あるものもありますが、第3次計画の時と名称が変わっているものも新規として書いています。また、新しい総合計画の中で新しく出たものも入っており、どちらも新規として書いています。

- 佐藤副会長 : 21ページの4-3施設の整備というところに公民館関連事業を入れていただきたいと思います。
- 田島課長補佐 : 確認をして、掲載します。
- 渡部委員 : 21ページ、4-1団体支援に載っている国際交流事業についてですが、ぜひ、市民との交流の機会の関係を入れていただくとありがたいです。
- 江崎会長 : 他になにかご意見はございますか。
- 中村委員 : 部活動地域移行関連の内容についても盛り込んでいければいいのかなと思いました。
- 荒木課長 : 統括している教育振興基本計画があり、来年度から新しい計画となります。その中でスポーツや文化芸術の充実というのが謳われているので、今後見直してそれぞれの充実につなげていければと思っています。
- 北林委員 : 人材バンクが必要だと思います。ボランティアや専門家など人と人をつなぐことが市の役割なってくると思いますので、そのような内容がどこかに入っているといいのではないかと思います。
- 江崎会長 : 部活動地域移行についても盛り込めますか。
- 田島課長補佐 : 事実確認をし「3 学びでつながる地域づくり」の中の、人材育成・活用のあたりに入れていければと考えています。
- 北林委員 : 障害者の支援という言葉についてはどのように考えていますか。
- 田島課長補佐 : 各課で行っていることの情報をもっと外にアピールしてもいいのではないかと気づきました。そのあたりを原課と調整し障害者の生涯学習についてピックアップ事業で出していければと思います。
- 江崎会長 : いくつかご意見が出ましたが、他にもあれば事務局へ連絡をお願いします。
- 田島課長補佐 : (下記について、参考資料No4に沿って説明)
・ボランティア活動に関するコラムについて
- 田島課長補佐 : 理念について、キーワードがあれば事務局へお願いします。手紙での募集とさせていただいてよろしいでしょうか。
- 江崎会長 : 皆さん、よろしいでしょうか。

調委員 : 理念は変える必要はあるのですか。

田島課長補佐 : 変える必要はないかと思うのですが、今回の計画でなるべくわかりやすい表現での意見があり、第3次の「互学協働」は調べても出てこないため、かみ砕いた言い方をいただければと思っています。

江崎会長 : キャッチコピーを含め、ご意見があれば、事務局へご連絡ください。

江崎会長 : その他ご意見等、ないようですので、以上で議題を終了いたします。それでは議長としての任を解かせていただきます。

6 その他

荒木課長 : 次回の会議は年内、12月中の開催を予定しております。

7 閉会（閉会の言葉：荒木社会教育課長）